



墨書土器（部分）  
「見寺」

であり、これは郡から郷への符、すなわち郡符木簡である可能性が高い。欠損のため内容の詳細については不明であるが、急を要する内容であったことが推察される。木簡の年代は、共伴した土器から寺が焼失した九世紀初頭頃と判断され、岐阜県下では初めての古代の木簡である。

古川盆地には杉崎廃寺を始めとする白鳳寺院の推定地が一〇ヵ所あり、その分布をみると一定の領域を単位とした寺院の建立が看取される。狭い盆地内の随所に伽藍が立ち並ぶ景観は、当地域の先進性を象徴するものといえようが、古代律令制国家における飛驒の特殊性を考慮するならば、賦役令斐陀国条にみえる工匠の供給との関係が想定されるところである。また、郷名が記された郡符木簡との関連でみるならば、七郷からなる荒城郡内に郷を単位とした寺院の造営が可能な状況を含め、今後の検討に委ねたい。

9 関係文献

河合英夫・島田敏男「飛驒の伽藍―杉崎廃寺の調査―」(『月刊文化財』三六六 一九九四年)

(河合英夫)

## 木簡研究 第一五号

巻頭言

早川 庄八

一九九二年出土の木簡

概要 平城京跡 平城京左京三条三坊三坪 平城京右京三条二坊三坪 藤原宮跡 藤原京右京五条四坊 丹切遺跡 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 中海道遺跡 勝龍寺城跡 平安京跡・旧二条城跡 鳥羽離宮跡 大坂城跡 大坂城下町跡 喜連東遺跡 平野環濠都市遺跡 植附遺跡 袴狭遺跡(内田地区) 鴨田遺跡 六六B遺跡 安養寺跡 宮の西遺跡 赤堀城跡 梶子遺跡 城之内遺跡 二本柳遺跡 二之宮宮東遺跡 安養寺森西遺跡 世良田諏訪下遺跡 小茶円遺跡 番匠地遺跡 瑞巖寺境内遺跡 八幡林遺跡 綾ノ前遺跡 馬場天神腰遺跡 乾遺跡 宮永ほじ川遺跡 北高木遺跡 山崎遺跡 中島田遺跡 久米窪田森元遺跡 観世音寺跡(南門跡) 協道遺跡 城原三本谷南遺跡 妻北小学校敷地内遺跡

一九七七年以前出土の木簡(一五)

一乗合朝倉氏遺跡(第九次) 長岡宮跡(宮第三一・三三三) 草戸千軒町遺跡(第五・六・八次)

国・郡の行政と木簡

―「国府跡」出土木簡の検討を中心として

京都府相楽郡木津町鹿背山郷蔵の俵上札

加藤 友康  
田中淳一郎

頒価 四五〇〇円 千五〇〇円